

田舎暮らしの

交流居住の先進自治体事例集

ススメ

5



生まれる場所は

選べないけれど、

暮らす場所は

わたしが選ぶ。



16

古きよき村の新しい時代への架け橋

奈良県十津川村 ならけん・とつかわむら

「村」の人たちは渡れますよ。もちろん全員じゃないですけど、林業の方や釣り人たちにとっては大切な通り道ですから」

揺れる吊り橋、足場は薄い板、左右のワイヤーの手すりは中央部まで進むと腰下ほどしかない。そんな吊り橋を手すりを使わずに悠々と歩きながら話すのは、岡田亥早夫さん。十津川村で『かんのがわHBP』の事務局長を務めている。「ここにあるものは、日本一広い村の自然。それがすべて。以前、村の人たちと

これからの十津川村について話しあったとき、守るべきものはやっぱりこの美しい山と川だろうという結論になりました」。

十津川村は奈良県の最南端、紀伊半島のほぼ中央に位置し、日本一広い村として有名なその面積は琵琶湖とほぼ同じ。奈良県の約1/5を占め、その96%は山林だ。村を流れる十津川と神納川は清流で美しい村の景観を生み出している。

20代の岡田さんは、村にできるだけ若い人が来てくれるよう、都市

部の人が出しやすい田舎体験プランを日々思案する。

「一番大切にしているのは村民や役場などとの連携です。村の農家において『農家民宿』に登録してもらって、村に来る方に十津川村のそのままを体験できるようにしています。僕の実家も『岡田』という民宿をはじめたんです」

十津川村に訪れた人は、この農家民宿に宿泊し、村の人と寝食をともにする。朝食付きで1泊7,500円で体験プランをセットにできる



「交流居住」施策の概要

広域地方計画先導事業「農山村と都市部のブリッジ」プロジェクトは、「農林漁業体験ツアー」「世界遺産小辺路の体験ウォーク」「畑田オーナー制度」「農林産品のブランド化」を積極的に進め、モデル事業として周辺地域に広げるとともに、周辺の市町村と連携した新たな流入・交流ルートを開発している。過疎地域と都市との持続可能な地域社会の構築を図っている。

目的別滞在タイプ

【短期滞在型】「ちこっと、田舎暮らし」

かんのがわHBP

神納川地区で登録されている「農家民宿」では、自給自足の生活を営む現地の人々と寝食をともにし、ありのままの日常を体験できる。現在登録農家民宿数が9軒あり、それぞれの農家の特徴と季節に沿って個別の体験プランが

用意されている(2010年8月現在)。「めはり寿司作り体験」「世界遺産小辺路ウォーク」などを織り交ぜて2泊3日までの体験が可能。宿泊施設「villa神納川」では、最長5泊6日泊まることができる。



【短期滞在型】「ちこっと、田舎暮らし」

子ども農山漁村交流プロジェクト事業

学ぶ意欲や自立心、思いやりの心、規範意識などを育み、力強い子供の成長を支える教育活動として、小学校における農山漁村での長期宿泊体験活動、農山漁

村での3泊4日の宿泊体験を実施。受け入れ対象を全世代に広げるなど新たな展開を開始している。



メニューもある。食事もただできあがるのを待つだけでなく、その日収穫した食材をつかって一緒に郷土料理をつくる。

「田舎に来て積極的に村の行事などに関わりたいと思う人もいれば、とにかくゆっくりしたいと思う人もいます。十津川村は、かけ流し温泉のいい旅館もあれば、僕らのような農家民宿もある。それは来てくれる人のニーズに応じて紹介していければいいと思っています」

その岡田さんにとって期待の若

者が2010年に移住してきた。神奈川県を卒業して移住した22歳の神谷明成さんだ。大学在学中に農業の勉強のために十津川村を訪れ、1ヵ月ほど岡田さんの家で寝泊りし、村のことを知っていく内に魅せられ移住を決めた。

かんのがわHBPを訪れると若い人たちが楽しそうに働いている。事務局員は岡田さんと神谷さんの2名だが、ここで村の伝統は受け継がれ、新たなスタートを切っている。

data

奈良県の最南端、紀伊半島のはば中央に位置し、森林と水資源に恵まれた村。村としては日本一の広さを有している。主な産業は、林業、観光業、建設業。村内には全国に先駆けて「源泉かけ流し」宣言をした県内唯一の高温泉が3ヵ所あり「十津川温泉郷」として有名。また、世界遺産の「鞍馬寺園道小辺路」と「大室奥庭道」がある。

●人口→4,159人/世帯数→2,023世帯(2010年8月1日現在)

●交通→近鉄大和八木駅より八木新宮線バスで約4時間、南紀白浜空港から車で約2時間